

焦点表示機能の通言語的比較対照から分かること*

中村浩一郎

1. 目的

本論文の目的は SVO 言語であるグン語、ベトナム語と中国語を SOV 言語である日本語を焦点表示機能要素 (Focus Marker、以下 FM) の観点から比較対照し、それらの構造を提示することである。

2. グン語、ベトナム語、中国語の FM

ニジェール・コンゴ語族に属する言語で、ベナン、ナイジェリアに話者が分布する SVO 言語であるグン語が FM と主題表示機能要素 (Topic Marker、以下 TM) を持つことはよく知られている。

(1) a. Nàwè lo yà gbákún étòn wɛ é dè
woman Det Top hat her Foc she remove
'As for the woman, she took off HER HAT.'

b. _[TopP] Nàwè lo _[Top] yà _[FocP] gbákún étòn _[Foc] wɛ _[FinP] é dè]]]] (Aboh(2016:151))

(1a)における yà は TM であり、wɛ は FM である。次に、ベトナム語の例を以下に示す。

(2) a. Hả, Nam, đên sao?
INTJ Nam come Q
'Well, is Nam coming?'

b. Không, không phải Nam mà là Tuấn.
Neg Complex Neg Nam Contrastive là Tuấn.
'No, it is not Nam but Tuấn who is coming.'

(Thảo (2020:496))

(2b)における mà là は対照焦点 (Contrastive Focus、以下 CF) を示す。ベトナム語における là はコピュラであるとされるが、FM としての機能も持つ。Thảo (2020) は構造を示してはいないが、以下に示す中国語と同様に、コピュラが FM としての機能を果たすと考えられる。

(3) Shi ni-de taidu gongsi-de laoban bu xinshang
Be your attitude company-DE boss Neg appreciate

'It is your attitude that the boss of the company does not appreciate.' (Pan (2019:150))

中国語における分裂文あるいは焦点構造が shi (是)~de(的) の形態を取ることはよく知られている。これは英語の分裂文 "It is ~that ..." あるいは「日本語の ~(なの)は...だ」に類似していると言われる。しかし、(3)には de が存在しない。つまり、shi 単独で FM として機能すると言える。中国語には、Paul and Whitman (2008), Cheng (2008), Paul (2015), Pan (2019), Pan and Liu (2023) 他による分析が明らかにするように、"...shi~de" 形式以外の焦点構造が存在する。以下 Pan and Liu (2023) から様々な形態の焦点構造を引用する。下線を付した要素が焦点の機能を持つ。

(4) a. Shi Zhangsan zuotian qu-le Faguo
be Zhangsan yesterday go-PERF France
'It was Zhangsan that went to France yesterday.'

b. Shi ta zai Weinsi xue-guo hanyu
be 3SG at Venice study-EXP Chinese

'It is he that studied Chinese in Venice.' (Pan and Liu (2023:3-5))

この 2 例では文頭に shi が生じ、直後の要素が網羅的識別的焦点 (Exhaustive Identificational Focus、以下 EI-Focus) として機能する。

(5) Zhangsan shi zuotian qu-le Faguo
Zhangsan be yesterday go-PERF France

'It was yesterday that Zhangsan went to France.' (Pan and Liu (2023:3))

(5) が示すことは、文頭ではない位置に shi が生じ、その直後の要素が対照焦点 (Contrastive Focus、以下 CF) として機能することである。

次に、文頭に shi、文末に de が生じる例文をあげる。

(6) a. Shi ta zai Weinsi xue-guo hanyu de
be 3SG at Venice study-EXP Chinese DE

'It was he that studied Chinese in Venice.'

b. **Shi** zai Weinsi ta zue-guo hanyu **de**
be at Venice he study-EXP Chinese DE

'It was at a Venice that he studied Chinese.'

(Pan and Liu (2023:8))

(6a,b)共に *shi* 直後の要素が EI-focus の機能を果たす。以上の例が示すとおり、中国語の焦点構造は多様な形態を持つ。Pan and Liu (2023)はそれらの例に対していくつかの異なる構造を想定している。

(7) a. [_{FocP} [_{TP2} [_{vP} [_v shi [Zhangsan]_i] [_{Foc'} [_{Foc0} Ø] [_{TP1} t_j zuotian qu-le Faguo]]]]]]=A structure for (4a)

b. [_{TopP} Zhangsan_j [_{TP1} [_{vP} [_v shi [_{AspP} pro_j zuotian qu-le Faguo]]]]]]=A structure for (5)

c. [_{FocP} [_{TP2} [_{vP} [_v shi [ta]_j] [_{FocP} [_{Foc'} [_{Foc} Ø] [_{CP} [_{C'} [_{TP1} t_j zai Weinsi xue-le hanyu] de]]]]]]]=A structure for (6a)

Pan and Liu (2023)の分析には2つの疑問点がある。1点目は *shi* が *v* 主要部に生起するのに対し、*de* は *C* あるいは *Asp* に生起するとしている。つまり SVO 言語である中国語の文末語気助詞だけが文末主要部に入ると想定していることである。2点目は *de* があるときには *C* 主要部に、またあるときには *Asp* 主要部に生起するとしており、統一性に欠ける点である。次節では日本語の分裂文分析を概観する。

3. Hiraiwa and Ishihara (2002)、三原・平岩(2006)

(8) a. 太郎が花子を叩いたのだ。

b. [_{TopP} [_{Top'} [_{FocP} [_{FinP} 太郎が花子を叩いた の] だ]]]]

(9) a. 太郎が叩いたのは花子をだ。

b. [_{TopP} [_{FinP} t_i [_{Fin'} [_{TP} 太郎が t_i 叩いた] の-は] [_{Top'} [_{FocP} [花子を] _i] だ]]]]

(8a)は(8b)に示す、(9a)は(9b)に示す構造を Hiraiwa and Ishihara (2002)、三原・平岩(2006)は想定している。更に、(9b)における「は」は音韻部門で挿入されるとしている。一方で「の」は *FinP* 主要部に、「だ」は *FocP* 主要部に生起するとしている。助詞の種類によって生起部門が異なるのは問題だと考えられる。Hiraiwa and Ishihara (2002)、三原・平岩(2006)と Hasegawa (2011)は共に「だ」が焦点表示機能を持つとしている。しかし、「は」が主題表示機能を持つと同様に、(9b)における「を」が焦点表示機能を持つとは考えられないのだろうか。

(10)A: 太郎は MIT に行くつもりだったんだよね？

B: いや、太郎は UMass に行くつもりだったんだよ。

B' いや、太郎は UMass に行くつもりだったんだよ。

C. あれっ、UConn だったかもしれない。

(10C) を(10B)に続けることはできるのに対して(10B')に続けることが難しいという事実は、強勢を受ける助詞「に」が焦点を表示することの証拠である。以上のことから、本論では以下の構造を提案する。

(11) a. [_{EI-FocusP} UMass [_{EI-Focus'} tUMass [_{EF-Focus} [に]]]]]=A structure for EI-FocusP

b. [_{CFP} 太郎 [_{CF} t太郎 [_{CF} [は]]]]]=A structure for Contrastive Focus Phrase (CFP)

c. [_{ThTop/ContrTopP} 太郎 [_{ThTop/ContrTop'} t太郎 [_{ThTop/ContrTop} [は]]]]]=A structure for Thematic Topic/Contrastive Topic Phrase
つまり、強勢を受ける助詞は EI-FocP の主要部に生起し、EI-Focus の解釈を受ける DP は指定部に移動する。一方強勢を受ける「は」は CFP の主要部に生起し、CF の解釈を受ける DP は指定部に移動する。強勢を受けない「は」は ThTop あるいは ContrTopP の主要部に生起し、ThTop あるいは ContrTop の解釈を受ける DP は指定部に移動する。この構造を使って(12a)の構造は(12b)のように示される。

(12)a. 太郎は赤ワインが飲みたいたのだ。

b. [_{TopP} [_{ThTopP} 太郎は] [_{Top'} [_{FocP} [_{EI-FocP} [赤ワインが]] [_{FinP} t太郎は飲みたいたの] だ]]]]

本稿で述べてきたことをまとめる。

(13) a. EI-Focus を示す名詞句は EI-FocP で構成され強勢を受ける助詞が主要部に生起し DP が指定部に移動する。その EI-FocP は *FocP* 指定部に生起する。 b. Contrastive Focus を示す名詞句は *ContrFocP* で構成され、強勢を受ける助詞が主要部に生起し DP が指定部に移動する。その *ContrFocP* は *FocP* 指定部に生起する。この要素は EI-Focus 効果を引き出さない。 c. Thematic Topic/Contrastive Topic を示す名詞句は *ThTopP/ContrTopP* に生起し DP が指定部に移動する。

4. 主要参考文献 Hiraiwa, Ken and Shinichiro Ishihara (2002) "Missing Links: Cleft, Sluicing, and 'No da' Constructions in Japanese," *MITWPL* 43, 35-54. 三原健一・平岩健(2006) 『新日本語の統語構造』. Pan, Victor and Chang Liu (2023) "Focus Constructions Involving *shi* in Mandarin Chinese," *Languages* 8, 1-22.

*本稿は2025年12月13日に摂南大学で開催された日本英文学会関西支部第20回大会英語学部門シンポジウム「言語の比較対照から分かること」における発表原稿を修正したものである。当日質問をいただいた方々、特に平井大輔氏と松原文典氏に感謝申し上げる。本研究はJSPS科研費24K03895の助成を受けている。